

平成 26 年 9 月 14 日 (日)

可児市教育委員会

## ○大萱古窯跡群概要

- 牟田洞古窯跡…<sup>うのはながき</sup>国宝志野茶碗銘「卯花塙」が焼かれたといわれ、荒川豊蔵が歴史的な発見をした窯跡。  
(大窯)
- 窯下古窯跡 …黄瀬戸の記年銘資料「文禄二年 (1593)」  
(大窯) が出土した窯跡。
- 弥七田古窯跡…17 世紀初頭に優品と名高い弥七田織部を  
(連房式登窯) 焼いた窯跡。



大萱古窯跡群 窯跡位置図

これらの窯跡は瀬戸黒、黄瀬戸、志野、織部といった桃山陶を焼いた窯跡であり、茶の湯が流行する中で、多くの名品を生みだしました。市教育委員会では平成 24 年度から継続的に調査を行い、国史跡指定を目指しています。

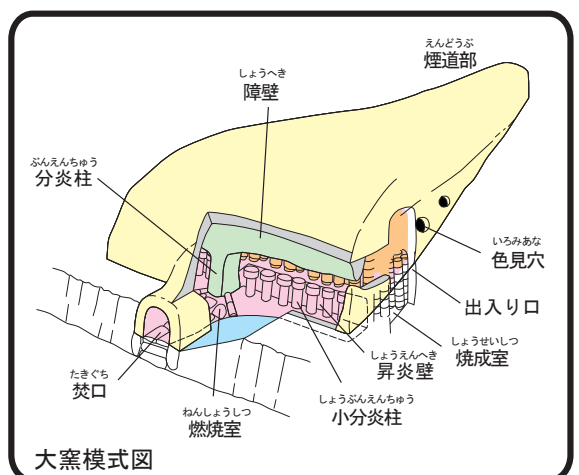
## ○大窯はどんな窯？

- ・ 15 世紀後半から使われた窯です。
- ・ 地表をある程度掘りくぼめ、傾斜を利用しつつ床面を造り、粘土等で天井や壁を築いた窯跡です。
- ・ 匣鉢が用いられ、釉薬をかけた陶器が焼かれます。

以前の時代により製品を多く焼くことができ、温度も高温となり、製品の出し入れが便利になりました。

(※現在みられる姿は天井や壁がくずれた後です。)

- ・ 窯跡は窯本体の他に物原や作業場等の遺構があります。



大窯模式図

### 語句説明

- ・ 焚口・・・焚木の投入口
- ・ 燃焼室・・・焚木を燃やす部屋
- ・ 焼成室・・・陶器を焼く部屋
- ・ 煙道部・・・煙が出るところ
- ・ 分炎柱・・・炎を左右にわけ、天井を支え温度を高める役目
- ・ 昇炎壁・・・炎を上へ吹き上げるために設ける
- ・ 小分炎柱・・・炎を左右にわけ、温度を高める役目
- ・ 障壁・・・仕切り。温度を高める役目
- ・ 色見穴・・・焼成の観察や瀬戸黒の引き出しのために設けた穴

## ○窯下古窯跡調査概要

西窯… 大きさ 推定残存長約 7.0m、最大幅約 3.3m。

燃焼室と焼成室の段（昇炎壁）が検出される。

焼成中もしくは取り出している最中に、天井が崩落した可能性も考えられる。

東窯… 大きさ 推定残存長約 7.0m、最大幅約 3.3m。

窯体の下部は床面が改変を受けている。（現在煙道部を検出中。）

※両窯跡とも、等高線に対して床面が東から西へ傾斜している。

※製品は、瀬戸黒、黄瀬戸、志野、天目茶碗、播鉢、皿などが焼かれている。

※物原（失敗した陶器を捨てた範囲）は東西に約 70m 広がっている。

※窯記号として「オ」「千」「ㄩ」などがみられ、大萱古窯跡群として有機的なつながりがみられる。

※文字資料として、窯道具に「□次郎平」もしくは「□免之平」と線刻されたものが出土した。

記号	牟田洞	窯下	弥七田
オ	○	○	
千	○	○	○
ㄩ	○	○	○



窯下古窯跡調査概要図